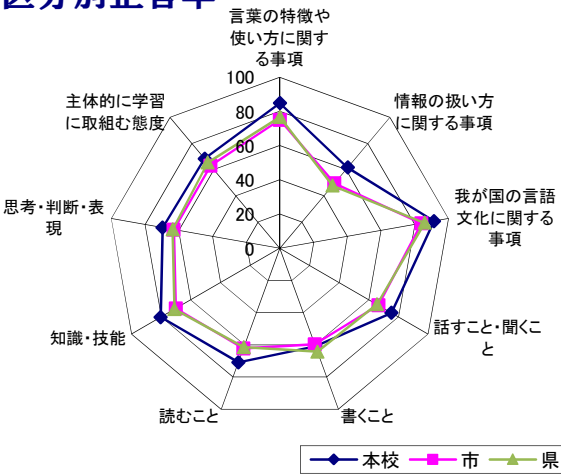


宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	84.9	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	61.7	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	91.4	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	75.3	66.5	65.5
	書くこと	60.8	59.6	64.2
	読むこと	70.8	62.2	61.5
観点	知識・技能	80.4	70.2	71.1
	思考・判断・表現	69.6	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	68.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

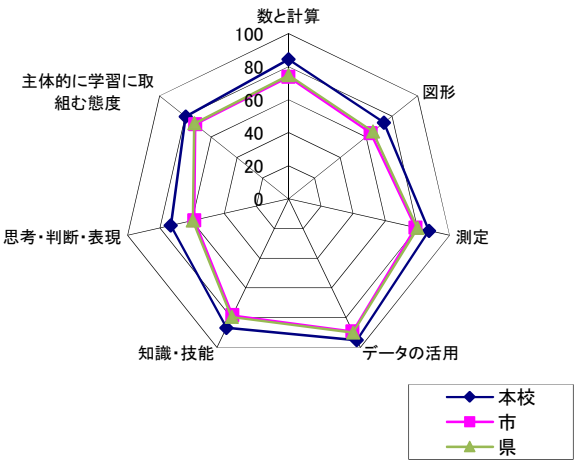
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を9.8ポイント、県の平均を8.2ポイント上回っている。 ○第3学年に配当されている漢字の読み・書き、主語と述語についての理解、様子や行動を表す語句の表現、ローマ字の表記については、県の平均正答率に対して、同程度か上回っている評価である。同程度のものについても、その正答率は9割を超えており、理解はできている。	・ローマ字の書き方について、bとdなどの文字の違いや「きゃ・きゅ・きょ」等、拗音のローマ字表記など、苦手とする部分にポイントを絞って、他教科との関連を図りながら、積極的に授業中に取り入れ、意図的に復習をしていくことができるよう工夫する。また、その定着を図る。 ・既習漢字は、今後も家庭学習等に継続して取り組めるよう支援していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を12.1ポイント、県の平均を13.9ポイント上回っている。 ○国語辞典の使い方は、市と県の平均正答率に対して上回っており十分理解できている。 ●情報と情報との関係について理解し、考えと理由の関係性を明確にして書くことについては、市と県の平均を上回るものの、正答率は5割程度で、個人差が見られる。	・情報の意図を読み取り、様々な情報と比べて、自身の目的や条件に合わせて再構成していく機会を増やすために、他教科との関連を図りながら、学習のまとめなどの場面で、得た情報を活用することを意識できるよう工夫する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、9割を超えていて、市の平均を7.4ポイント、県の平均を5.5ポイント上回っている。 ○本事項は、漢字のへんやつくりの理解を問われている。県の平均正答率に対して上回っている。	・既習漢字と同様に、漢字のへんやつくり、ことわざや故事成語等言語に関する学習についても、今後も家庭学習等に継続して取り組めるよう支援していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を8.8ポイント、県の平均を9.8ポイント上回っている。 ○話の中心を明確にするための工夫を捉える設問については、県の平均正答率に対して大きく上回っている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えたり、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる設問については、県の平均を上回るものの、個人差が見られる。	・日常の学習にペア学習やグループ学習を積極的に取り入れながら、自分の考えとそれを支える理由までを含めて、意見を述べられるような機会を増やしていく。 ・大切なことを落とさず聞くために、話を聞く時のポイントや話し方、気を付けるべきことについて繰り返し指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を1.2ポイント上回っているが、県の平均を3.4ポイント下回っている。 ○2段落構成で文章を書く設問では、市・県の平均正答率を上回っている。 ●指定された長さで文章を書く設問では、4割から5割ほどの正答率であり、個人差が見られる。また、無回答の児童も2割ほどいる。	・学習の中で、自分の考えを書く際、話し合う活動も取り入れ、自分の考えを深めた上で書くなど、十分な文量で書くことに慣れていけるようにする。 ・他教科との関連を図りながら、個人やグループによる新聞づくりや学習のまとめづくりなどで、集めた様々な情報を比較分類して、目的や条件に合わせて文章を書く機会を増やし、文章の構成・段落に注意して文章を書けるような指導をしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を8.6ポイント、県の平均を9.3ポイント上回っている。 ○物語の登場人物の気持ちや場面の様子、説明文の内容を捉える設問では、県の平均正答率を上回っている。 ●物語の場面の様子について、叙述を基に捉える設問では、正答率は2割強であり、個人差が見られる。	・読書をする際に、好きなジャンルのものだけでなく、様々な本に親しむことができるよう、声掛けをしていく。その中でも、ブックトークなどを利用し、説明文を読むことに興味をもち、まとまりや段落を意識し、それぞれの段落の内容を捉え、段落同士がどのように結び付いているのかを考えながら読めるような場を増やしていく。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	84.4	73.8	74.8
	図形	73.8	63.7	65.3
	測定	87.2	78.9	80.1
	データの活用	95.1	89.3	90.0
観点	知識・技能	86.8	78.3	79.5
	思考・判断・表現	73.2	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	79.8	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

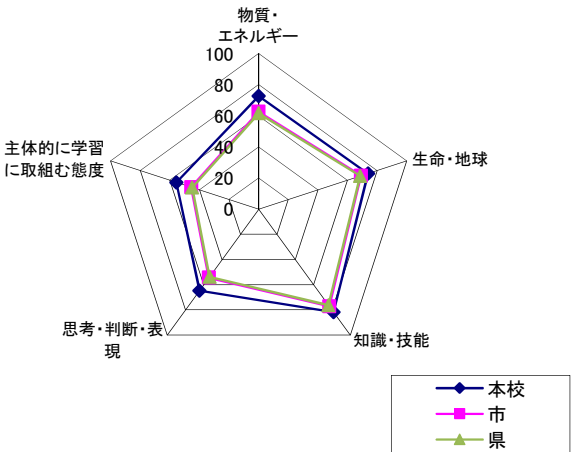
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を10.6ポイント、県の平均を9.6ポイント上回っている。 ○四則計算についてはどの問題も県の正答率を上回っており、基本的な計算の技能が身に付いていることがうかがえる。 ●「整数－小数第一位」の計算をする設問では、県の平均を9.7ポイント上回っているものの、校内正答率は6割を切っているため、やや課題が見られる。	・既習事項については、ほぼ身に付いていると考えられるが、「整数－小数第一位」の計算など、小数と整数が混ざった計算についてつまづきが見られる児童がいるため、今後も繰り返し復習させ、定着を図る。 ・算数で学んだ技能や知識を日常生活で使う場面を設定し、学習内容を自分事としてとらえることができるようにする。これにより、学習に対してさらに必要感をもって取り組むことができるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均を10.1ポイント、県の平均を8.5ポイント上回っている。 ○円の直径を使って考える問題や、二等辺三角形の作図をする問題では、どの問題も県の平均を上回っている。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる説明をする設問は、県の正答率を16.6ポイント上回っているものの、校内正答率は3割を下回っているため、課題が見られる。	・自分の考えや問題の解き方を文章に表す活動を取り入れ、解き方を説明することに慣れ、既習事項と結び付けながら表現する力の向上を図る。 ・今後、図形を用いた学習をする際には、具体物を操作したり、今まで学習した図形の作図を取り入れたりするなど、学習内容の定着をより一層図る。
測定	平均正答率は、市の平均を8.3ポイント、県の平均を7.1ポイント上回っている。 ○地図から道のりを読み取って、その和を求めることができる。 ●身近な物の重さを推測し、適切な単位を使って表す設問には、県の正答率と比べると12.6ポイント上回っているものの、校内の誤答率を比べると他の設問に比べて高いため、課題が見られる。	・日常生活の具体的場面における量感と、学習で習い覚える知識が結び付くような場を、算数に限らず様々な学習場面において設けていく。また、日頃から物の重さを予想し実際に調べる機会を設ける。
データの活用	平均正答率は、市の平均を5.8ポイント、県の平均を5ポイント上回っている。 ○棒グラフの目盛りの大きさに着目して、正しく棒グラフを読み取り、理由を説明することができている。 ●棒グラフで、1目盛りの表す数についての設問では県の正答率を5.1ポイント上回っているが、無回答が2.5ポイントだったためやや課題が見られる。	・算数だけでなく、社会科や理科等で表やグラフを読み取る学習を取り入れていく。その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを伝え合うことで、多面的な考え方を知る機会を設定していく。また、回答が無回答の児童がいるため、様々なグラフの目盛りを読む機会を設ける。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.6	62.5	61.5
	生命・地球	73.8	69.2	68.6
観点	知識・技能	81.8	77.2	76.3
	思考・判断・表現	64.6	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	55.6	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を10.1ポイント、県の平均を11.1ポイント上回っている。 ○すべての内容において正答率が、県や市の平均より高い。特に「光のせいしつ」において、水を入れたペットボトルが光を集め、虫眼鏡と同様の性質をもつことを問う設問の正答率は、県の平均より20.3ポイント上回っている。 ●県の平均を若干上回っているものの「電気の通り道」における適切な回路の配線についての設問では、正答率が約6割と定着度は低い。	・理解が不十分な部分に関しては、学習プリントなどで知識を定着させ、その知識と経験等を結び付ける活動を多く取り入れることで、より理解が深められるように指導する。
生命・地球	平均正答率は市の平均を4.6ポイント、県の平均を5.2ポイント上回っている。 ○ほぼ、すべての内容において正答率が、県や市の平均より高い。特に「植物の育ち方」において、ホウセンカの育つ順と草たけの関係を読み取る設問の正答率は、県の平均より21.6ポイント上回っている。 ●「身近なしぜんかんさつ」の内容の正答率が、市、県の平均よりわずかに下回った。特に、虫眼鏡の使い方についての理解が低く、県の平均より13.9ポイント下回っている。	・観測や測定で使用する器具の使い方については、誰もが実際に使用する経験をすることで、観察・実験の技能を高めるとともに、正しい知識を身に付けることができるようにする。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」と肯定的に答えた児童の割合は92.6%で、市や県の平均よりもおよそ8ポイント高い。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の設問に「はい」と答えた児童の割合は67.9%と市や県の平均と比べて26ポイント以上高く、授業に落ち着いて前向きに取り組めている様子が見える。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」の設問に対して、「はい」と回答した児童の割合は58%と、市や県の平均と比べると、10ポイント以上高い。これからも学級での学習雰囲気高め、児童が意欲的に授業に取り組めるようにしていく。

○「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は、84%と、市や県の平均と比較すると21ポイント程度高い。今後も、学級での係活動など、児童が意欲的に活動することができるよう支援していく。

○「家の人と学習について話をしている」の設問に肯定的に答えた児童の割合は87.6%で、市や県の平均と比べて、9ポイント以上高い。家庭において、児童の学習に関心を持ち、児童の家庭での学習を励まし、支援していただいている様子が見える。

○●「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている」の設問に「はい」と答えた児童は63%と、市や県の平均と比べ、およそ14ポイント高い。その反面、「自分の行動や発言に自信をもっている」に対して「はい」と答えた児童の割合は、21%で、市や県の平均より8ポイント程度低かった。児童のよい面を伸ばし、自信をもって行動できるよう、様々な場面で声をかけ支援していく。

●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、50.7%で、市や県の平均よりおよそ10ポイント低い。日々の自主学習をはじめ、家庭での学習に対して前向きに進んで取り組めるよう、学習内容や方法などについてもう一度確認をする。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は45.7%で、市や県の平均よりもおよそ10ポイント低い。授業の中や家庭での自主学習などの場面において、分からない語句や疑問に思ったことなど、積極的に図書の資料や個人用パソコンなどを活用して解決していけるように促していく。